

皆を照らす光の刃

ヨーグリー

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

18階層の階層主からベル達を次の階層に続く穴に突き飛ばしたエル。その直後階層主の攻撃を受けて死んでしまった。

そんな彼が次に転生した世界で人々の光になろうとする物語！

目次

設定& a m p ;プロローグ

設定

名前 神崎 衣琉 (かんざき える)

呼吸法 光ノ呼吸

型

壺ノ型 灯火ノ光

式ノ方 浄化ノ光

参ノ型 光ノ檻

肆ノ型 閃光

伍ノ型 光速劔

陸ノ型 空霸烈光斬

漆ノ型

捌ノ型

玖ノ型

拾ノ型

原作の方は読んでないのでどこか原作の設定とは違う所があるかもしれないですが大目に見てください

ちなみにヒロインは真菰です。理由は単純に自分が鬼滅の刃で真菰が推しだからです。

真菰をヒロインにするにあたってなんですけど、真菰っていつの最終戦別で死んだか分からないんですよ。それでもし仮に真菰が明治時代の人間だとすれば時代が炭治郎達と違うのでこのままだと原作に関われなくなるので申し訳ないんですが大正時代に産まれて死んでいないって設定にします。

まだ文字数が足りなくて投稿出来ないので申し訳ないんですがそのまま連続でプロローグも書きちゃいますね。

プロローグ

この世界には『鬼』が存在している。その鬼は人を見つけ次第襲い掛かり食い殺してしまう。　だかそんな鬼にも弱点がある、それは日光だ。なので鬼は日光が出ている内はどこか暗い場所に隠れて過ごしてる。

しかし日が落ち夜になると鬼が人を食いに動き出す。そして今日も……

「はあー！」

目の前にいる鬼の頸を斬ると頭が地面にドサツと落ちるそして斬られた鬼は頭と体が塵のようになって消えていく。

「これで最後か」

そう呟きながら『煉獄』と同じ長さの金色の日輪刀を鞘に戻す。この世界に転生してから10年が経った。転生する際に俺は『ダシマ』の世界でヘステイア様に刻んでもらったファルナのステータスを使えないようにしてもらい、だからあつちでよく使ってたスキル、魔法は一切使えない。

けど剣技に関しては前の世界で嫌というほど戦っていたため自分で言うのもなんだが負け無しだとは思っている。だが先程も言った通りステータスは一切使えないのと当時まだ7歳だったという事もあって全く戦えなかった。けどそんなある日俺はある人に出会って『全集中の呼吸』と『全集中・常中』を学び身につけ、『呼吸法』というものを教えてもらった。

その人は俺が『全集中の呼吸』と『全集中・常中』を使えるようになった翌日にいなくなってしまった。今思うと不思議な人だった必要最低限のこと以外は何も話さず基本無口なのに思っていることがすぐ顔に出るから何を考えているのか分かってしまう。だから話さずともコミュニケーションは取れていた。

（あの人は今何してるんだろう…。それにどこかゼウス様に雰囲気似てるんだよな）

そんなことを考えながら俺は次の村に向かって歩みを進める。